令和3年度事業報告

○ 新潟市歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等

1 文化事業

「新潟市域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めると共に、歴史を媒介とした市民交流を行うことにより、市民の社会的活動及び文化的活動に寄与する。」という博物館の設置目的を達成するため、以下の各種事業を行った。

（1） 展示運営更新

人と水の関りをテーマに新潟市の歴史を紹介。学芸員やボランティアによる展示解説を行った。また、川村修就コーナーの展示ケースを、4 月・7 月・10 月・1 月の 4 回、展示替えした。

（2） 企画展示事業

興味深いテーマを設定し、地域の歴史・文化を楽しく分かりやすく市民に伝える展示を行った。今年度は指定管理事業として以下の 4 本の企画展を開催した。

①「みなとまち新潟の記憶－新潟町会所文書の世界－」展

これまで「みなとまち新潟」の歴史を語る上で欠かせない資料としてたびたび活用されてきた「新潟町会所文書」を通して「みなとまち新潟」を見つめ直した。

開催期間　令和 3 年 4 月 10 日～5 月 30 日　　44 日間

観覧者数　1,641 人（うち有料観覧者　1,072 人、無料観覧者　569 人）

②　第 18 回むかしのくらし展「新潟のくらしと年中行事」

正月、節分、雛祭り、お盆など日本の年中行事の意味を考えるとともに、かつての年中行事を通して新潟の 1 年間の生活を紹介した。年中行事の思い出を共有できる「ぼくわたしの地域の年中行事」のコーナーを設け、来館者に思い出を書いてもらった。

開催期間　令和 3 年 9 月 17 日～11 月 14 日　　52 日間

観覧者数　6,878 人（無料観覧者）

※新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、9/3～9/16 を臨時休館とし、企画展の開始を当初の 9/11 から 9/17 に変更した。

③「収蔵品展・新収蔵品展」

館収蔵資料を効果的に公開するため、テーマを設けて資料を紹介する収蔵品展を毎年開催しているが、今年度は「近世沼垂町」をテーマに資料を紹介した。また、令和 3 年度に新たに受け入れた資料を紹介する新収蔵品展を開催した。

開催期間　令和 3 年 11 月 27 日～令和 4 年 1 月 30 日　　49 日間

観覧者数　3,991 人（無料観覧）

④「幕末新潟の絵師」展

市指定文化財「新潟入船之図」を描いた行田魁庵や県指定文化財「大船絵馬」を描いた井上文昌を中心など、幕末期に活躍した新潟の絵師たちについて作品とともに紹介した。

開催期間　令和 4 年 2 月 11 日～3 月 27 日　　37 日間

観覧者数　2,729 人（うち有料観覧者　1,891 人、無料観覧者　838 人）

（3） 教育普及事業

新潟市の歴史文化への市民の関心や興味のニーズに対応するため、ボランティアなどの人的資源や博物館が有するモノや情報、ライブラリーなどを活用して、歴史に関するさまざまなサービスの提供や活動の提案を行った。ただし、感染症拡大防止のため制限・中止したものもある。

① 体験の広場事業

体験の広場ではハンズオン機能を制限し、一般見学者には展示見学を主とする施設運用に変更した。また、施設や資料を活用して実施する小学生や家族連れ・大人等を対象とした各種の体験プログラムについては、コロナウイルス感染症拡大による県の特別警報やまん延防止等重点措置を受け中止としたプログラムも多い状況において、計 42 回　実施した。

② 博・学連携事業

小学校 62 校・中学校 25 校を受け入れ見学に際し展示解説等を行った。そのほか、学校へ出向いて行う授業を小学校 6 校、リモート授業を小学校 1 校で実施した。コロナウイルス感染症拡大に伴う県の特別警報やまん延防止等重点措置により学校の来館中止が続いた。職場体験の中学生の受け入れも中止となった。また、新潟大学と連携して当館学芸員が講師をつとめる寄附講義は昨年度に続きリモートで開講した。大学生を対象とする館実習は、通年および夏休み期間集中の 2 本を実施した。

③ 講座事業

調査研究事業の成果を公開し、新潟の歴史や文化に関する「学び」や「楽しみ」を提案することを目的に、幅広いニーズに対応するための以下の各種講座を開催した。

・博物館講座　全 9 回、古文書入門講座　全 2 回　館長講座　全 4 回

④ ボランティア事業

敷地ガイドや常設ガイド、体験の広場のプログラムの実施・補助として活動するボランティアを養成するとともに、感染拡大防止に配慮しながら活動を支援した。登録者数 114 人。

（4） 施設普及事業

博物館の活動を広く市民に知ってもらうため、リーフレットや「博物館ニュース」（3 回）、年報などの出版物を作成し、新聞・雑誌等を通じて館の広報活動を行うとともに、以下の事業を実施し、博物館の利用推進を図った。

① 地域連携事業の実施

例年、博物館近隣の市民団体と共催で企画・開催している「堀とさくらのコンサート」は雨天のため中止、「夕涼みコンサート」、「みなと･しもまち･川まつり」は、感染症拡大防止のため中止となった。

② みなとぴあファンクラブ

博物館の情報を定期的に会員に向けて提供した。また、会員向けの企画展鑑賞会・まちあるき「牡丹山砂丘を歩く」（11/6）・館長講演会「新潟町唐物抜荷再考」（12/5）・学芸員による講座「銀行と絵図でみる江戸時代の新潟町」（2/23）を実施した。

※館長バスツアーは中止とした。

（5） 調査研究事業

主に企画展示や収蔵品展に関連した調査・研究を実施した。

そのほか、学芸員の専門分野における研究や館活動を通じた資料調査も随時行い、その成果は博物館講座を通じて市民に報告・還元するとともに、主なものを『研究紀要 18 号』にまとめた。

（6） 資料整理事業

寄贈を受けたり、購入したりした歴史・民俗・美術・図書等の資料を長期的に保存・活用することを目的に、以下の事業を行った。

① 保存環境管理

館蔵資料の長期保存のため、展示室やケースなどの展示施設をはじめ、収蔵施設である本館収蔵庫・旧木場小学校、板井保育園等について、各種の保存環境調査や清掃、防虫対策のためのくん蒸など、IPM に則った各種の保存環境管理を行った。

② 資料収集整理

地域の歴史を語る資料を収集するとともに、資料を管理し活用するために、資料の基礎的データや資料の詳細情報を調査・記録した。

（7） 自主事業「歴史発見プロジェクト」

新潟の歴史に親しみ、自らが歴史を発見する喜びを知ってもらうため、歴史を題材とした以下の自主事業を行った。

① 企画展

「川・街・港　変わりゆく風景」展

新潟の街を数多く撮影してきたアマチュアカメラマン桜井進一氏の作品を展示した。日常風景を始め、新潟地震の被害状況、再開発により変化する新潟港、信濃川を軸に大きく変わる街の様子を写真により紹介した。

※みなとの博物館ネットワークフォーラム助成事業

開催期間　　令和 3 年 7 月 17 日～8 月 29 日　　38 日間

観覧者数　　3,207 人（常設展観覧券購入者に限定）

② 中級古文書演習

実際の古文書を読むため、全 17 回の実践向け演習を行った。参加登録者 24 名。

※9 月、1 月、2 月の全 3 回を感染症拡大防止のため中止とした。

③ こども歴史クラブ

小学生を対象にクラブ員を募り、古代から近現代までの人々の暮らしに関わる全 9 回の体験プログラムを実施した。クラブ員 21 名。

※1 月、2 月の 2 回を感染症拡大防止のため中止とした。

④ 大人の体験プログラム

「鮭の塩引きづくり」（11/13）

会場：いくとぴあ食花調理実習室　参加者 16 名

⑤ 特別講演会

新潟県民具学会共催講演会「民俗資料をどう活かすか？」（11/7）

会場：セミナー室　　参加者 59 名

２ 文化施設管理受託事業

歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等管理事業

市民に親しまれる博物館を目指して、利用者へのサービスの向上に努め、歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等の管理運営を行った。

（1） 歴史博物館管理事業

① 博物館本館（常設展示室、企画展示室、ミュージアムシアター、体験の広場、セミナー室、情報ライブラリー等）

② 旧第四銀行住吉町支店（応接室、会議室、日本間）

③ 屋外施設（広場、堀、園路等）

（2） 旧新潟税関庁舎等管理事業

① 旧新潟税関庁舎

② 史跡（石段、石積み、石庫等）

（3） 信濃川左岸緑地管理事業

３ 付帯事業

来館者に対するサービスの充実を目的に、歴史に関する書籍やグッズ類を扱ったショップの運営や自動販売機の設置を行った。

① 物販等ショップの運営

② 自動販売機の設置

※ 令和3年度歴史博物館入館者数　63，162 人